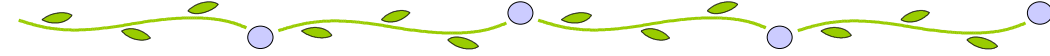


市川を調べる

編集 市川を調べる会(会長・星 一郎/事務局・木村隆一)

発行 八戸市立 市川公民館 (館長 氣田 武男)



五戸川と奥入瀬川は合流していた

轟木下 木村 隆一

I. 〈江戸幕府に提出した絵図面〉

五戸川は戸来岳山麓の迷ヶ平に源を発し、新郷・五戸・八戸市の市川町を経て太平洋に注ぐ全長約 56 km で、県が管轄する二級河川である。(青森県では 6 番目に長い。)

さて、江戸幕府は正保元年(1644)各藩に対して国の絵図を作成するように命じたが、盛岡藩の木村又助五戸代官が元禄 5 年(1692)に提出した五戸川河口付近の地図(下図)では、上段の相坂川(奥入瀬川)と下段の市川(五戸川)が合流していたのがわかる。



また、奥入瀬川の流れが一定でなかったため、市川村と百石村との境界がはっきりせず、鮭の捕り合いで紛争も絶えなかった。



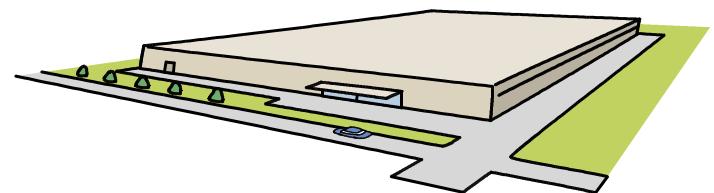
II. 〈氾濫の多かった河口付近〉

奥入瀬川と五戸川の河口は合流し、ここを市川湊と言った。五戸川に比べて奥入瀬川は川幅が広く、水量も多かったが堤防がなかったため10回以上の水害が記録されている。

III. 〈五戸川と奥入瀬川の切替工事〉

前述の問題を解決すべく、大正 3 年 9 月 13 日、川村徳松市川村長が小浜松次郎県知事宛に次のような申請書を提出している。「奥入瀬川は出水の時に川が氾濫し、河岸の崩壊・水陸田の浸水甚だしきにより、当村下揚から北へ約 20 間以内の所に長さ100間・幅5間の堀切を作り、被害の程を少なくするため本議会の決議をもって実地調査の上、許可してもらいたい。」

大正 4 年 8 月 7 日、三浦元次郎百石村長は小浜県知事に対し「相坂川河口切替の意見書」について村会の決議通りになったことを報告した。これによって市川と相坂川の切替工事が行われ、今年(1914)は 95 年目を迎える。



IV. 〈その後の五戸川〉

五戸川は大正末期までは市川と呼ばれていたが、大正 12 年 6 月 26 日に「五戸川」という名に統一された。また昭和 10 年までに豪雨による増水氾濫が頻発し甚大なる被害を受けたが、その年に改修のための大工事に着手し、倉石から市川まで 2 万2千メートル、約 6 億3千万円の費用と延べ28万人にのぼる人員を投入し、昭和 30 年 3 月 21 日に完工。その結果、流域2,300町歩の水田を潤し、県南穀倉地帯の生命線となったのである。

それにつけも、天保 7 年(1836)に市川は尻引在住の藤田又右衛門による開田工事の開始、21 年間を費やし、安政 3 年(1857)の「又右衛門堰」の完成という先人の血のにじむような努力を忘れてはならないと思う。

現在、河川の切替工事が行われた八戸市市川町字下揚には「市川水産加工工業団地」が造成されて大型工場が 24 社進出。かつての水害常習地帯が水産加工団地に変容した姿に接し、隔世の感を禁じ得ない。

* 参考 : 「流れる五戸川」 「百百町誌」 「五戸町誌」

* 写真加工 氣田 武男